

4月に
全戸配布

ハザードマップを 広げよう

ハザードマップは、「自分の住むまちのどこに、どんな危険が潜んでいるか」を教えてください。ただの地図ではなく、災害が発生した時に「どこが危ないのか」「どこに逃げればいいのか」を視覚化して、災害への備えや情報をまとめた、命を守るガイドブックです。

最近急な大雨も増えています。「もしも」の時に迷わないために、ハザードマップを使って災害対策を考えてみませんか？

☎ 建設総務課 (内線557)
危機管理室 (内線511)



1 自宅の位置を確認して、印を付けよう

！ まずは「色」をチェック！

ハザードマップの地図面を広げて、自分の家を探してみましょう。背景の色は、浸水の深さや土砂災害の危険を表しています。「うちは何色かな？」と確認するところからスタート！

浸水や土砂災害が想定されるか確認しましょう。

2 災害ごとに「避難所」を確認しよう

！ 「どこでもいい」わけじゃない？

最寄りの避難所がどの災害に対応しているのか。避難所一覧で確認しましょう。「洪水が起こりそうな時はここ」「土砂災害ならあっち」と使い分けを知るのがポイントです。

施設立地状況が「地震」「洪水」「土砂災害」となっている避難所への避難は、注意が必要です。

3 避難所までの安全な避難経路を設定しよう

！ 「安全な道」をシミュレーション

避難所までの道に、冠水しやすいアンダーパス(鉄道などの下をくぐる道)や、崩れそうな崖はありませんか？

実際に歩いてみて、安全に避難できそうか、避難にどれ位の時間がかかるかなどを確認しておくとう安心です。

！ 避難するタイミングは？

テレビやスマートフォンなどで「警戒レベル」を確認しましょう。
避難のタイミングは「レベル3」と「レベル4」です。「レベル3」
高齢者や障がいのある方、小さなお子さんがいる方など、避難に時間のかかる方は、避難の準備をしたり、避難を開始しましょう。
「レベル4」
全員危険な場所から避難しましょう。

警戒レベル	河川氾濫 土岐川の氾濫 (注1)	土砂災害 急傾斜地などの がけ崩れや土石流	大雨 低地の浸水や 土岐川以外の氾濫	避難情報	市民がとるべき行動
5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 大雨特別警報	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保！
《警戒レベル4までに危険な場所から必ず避難！》					
4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 大雨危険警報	避難指示	危険な場所から 全員避難
3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 大雨警報	高齢者等避難	避難に時間を要する 人は早めに避難
			レベル3 大雨警報	(注2)	いつでも避難できる よう準備
2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 大雨注意報		避難場所など、 避難行動を確認
1	早期注意情報				災害への心構えを高める

注1 「河川氾濫」でお知らせするのは、土岐川の氾濫情報です。その他の河川の氾濫情報は「大雨」でお知らせします。

注2 レベル3大雨警報は、雨の降り方や河川の増水の状況などを総合的に判断して高齢者等避難を発表します。「高齢者等避難」が出たら、避難に時間のかかる方は早めに避難しましょう。

※警報などの防災気象情報が大きく変わりました。詳しくは市ホームページ (HP1011268) をご確認ください。



4 「わが家の防災・緊急情報メモ」に記入しよう

！ 「言葉」にしよう

「連絡先」や「集合場所」をハザードマップの情報面にある「わが家の防災・緊急情報メモ」に記入しましょう。書いたら、冷蔵庫などの目立つ所に貼っておくのがおすすめです。